

番組審議会

第643回

開催日 令和2年11月16日(月)

■委員の出席

委員総数 10名

出席委員数 10名

出席者	委員長	音好宏	
	副委員長	中江有里	
	委員	江澤佐知子	尾縣貢
		萱野稔人	喜田村洋一
		佐藤智恵	長嶋有
		藤原帰一	水無田気流

TBSテレビ	佐々木社長
	渡辺常務取締役
	岩田取締役
	瀬戸口編成局長
	安田コンテンツ制作局長
	中川コンテンツ制作局 バラエティ制作一部長
	田村ディレクター
	中山編成考査局長
	鈴木編成考査局視聴者サービス部長
	岩村番組審議会事務局長

■議事概要

(1) 審議事項

1) 「V6の愛なんだ2020」

11月3日(火) 19:00～22:00 放送分について

2) その他

(2) 報告事項

1) 「ミスゼロキャンペーン」について

(3) 事務局報告事項

1) 視聴者からの声について

2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

(「V6の愛なんだ2020」について)

- V6がすごくいい味を出していた。かつては中高生の兄貴的な存在だったが、いまや年齢を重ねて、時には親のような目線で彼らを見守っているのが印象的だった。一方で、生徒とともに作業に取り組む場面では、彼らと同化して協調する感じがよかった。V6の飾らない姿が、広い層からの高い支持を得たのではないかな。
- うまくいかなかったところ、全然パーフェクトじゃなかったところもちょうんと明言されていて、美しい終焉にしていなかったところがよかった。
- スポーツや文化、ものづくりといった活動を通して青春を豊かにしていくことの大切さを改めて気づかせてくれた番組だった。
- 改めてコロナ禍で生徒たちが置かれた立場を実感し、本当に青春が「止まって」いたんだと痛感した。毎年できていたことができなくなり、彼らの、何かをやり遂げたいという思いが宙に浮いている状況だったと思う。それに対して、テレビだからこそできる形でプッシュ、バックアップしたことに、と

りわけ今年は大きい意義があった。

- 自分の目の細さを自虐的に話して、笑いを取っていた生徒がいたが、たとえば本人が「全然気にしていないよ」ということでも、今後は難しくなってくると思うし、やはり外見いじりは控えたほうがいい。ルッキズムに抵触する面もあるので、たとえば「目が細くても大きくても魅力的なんだよ」というメッセージなど、そういうものが1つ欲しかった。
- 感動を前提とする番組は、下手をすると、いわゆる「感動ポルノ」になってしまうが、そうならず、あざとくならず番組が作られていた。
- コロナのせいでこういう番組になったことを残念に思う点もある。今回、多くのコーナーは、有能な人たちが有能さを発揮するコンテンツだった。能力がある人が、映像メディアで「バエる」能力を発揮する比重が、過去の「愛なんだ」に比べて多かった気がする。過去の「愛なんだ」は、平凡で、今の時点では突出した能力はないけれども、明るくワイワイやっている子らの様子も出してくれるのが、すごく楽しいところでもあった。来年の放送では、コロナが明けると信じて、くだらないじゃれ合いみたいなものをまぜつつ、今の子どもたちの総体を見られるのを楽しみにしている。
- 何でこの番組はこんなに大人の心も捉えるのかというと、10代に向けているようで、かつて10代だった大人たちにも響いているのだと思う。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)